

しまね労連 憲法を行政に生かして 「共謀罪」法案にノーを 自治体キャラバンで県へ要請



5月22日から全県自治体キャラバンを開始した、しまね労連の小坂芳子議長らが5月31日、県庁を訪れ、「憲法を行政にいかす」よう要請しました。(写真)

申し入れでは、①島根原発の再稼働に反対するこ

と②最低賃金を引き上げ、地域間格差を解消すること③公契約条例を制定することなどを求めました。県の担当者は「原子力規制委員会に厳格な審査を要請している」「企業の体質強化・収入アップで賃金上昇につなげていきたい」「公契約条例を制定した自治体について、引き続き調査・研究していきたい」と答えました。

参加者は「共謀罪」法案について「自治体から『説明不足』『住民の不利益に つながらないか』など懸念の声が寄せられた」と紹介

地域の話題 アタック

消費増税中止を 各界連が宣伝署名

消費増税中止を各界連は5月24日、松江市で宣伝し、「共謀罪」反対と消費増税中止の署名を呼びかけました。島商連の大家英司事務局長は「『共謀罪』法案は国民の内心を処罰するもの。参議院で必ず廃案に」と訴えました。

日本共産党の後藤勝彦県委員長は「消費増税10%への増税に反対します。大資産家や大企業が相応の負担をするよう税金の集め方を変えていきます」と表明すると、手を振って声援を送る人も見られました。

東京から観光で来た女性(60)は「戦前の

国保の都道府県化 井原議員が追及

日本になるようで恐ろしい」と署名しました。

井原議員「国保は2018年4月、財政運営の主体が市町村から都道府県に移行し、広域化が進められる。都道府県化で保険料引き上げが懸念されるがどうか。

部長「保険料の大幅引き上げが予想される場合は、現在の基金を活用して調整できる。2015年の一般会計から国保会計への繰入総額は3971万円で一人当たり1103円。保険料引き下げについては、2018年から国の財政支援が拡充され、歳入が増えるが、被保険者の

生活交通具体化を 多田議員が要求

減少や医療給付費の増加により保険料を引き下げた状況にはない。(井原ゆうの議会報告)より)

多田議員「生活交通における市民からのニーズは、乗合タクシーが最適だ。低料金で利便性を確保し、運行委託料でタクシー事業者の経営を安定させれば、市民の外出も容易となり、経済活性化や賑わいにつながると考える。具体化を求めると、どうか。

答弁「地域コミュニティとタクシー事業者による生活交通の検討を促している。地域コミュニティから相談があれば、市としても一緒に検討していきたいと考えている。(多田伸治の議会報告)より)」

島根原発1号機廃止措置

島根県総務委員会

大國・尾村県議が質疑

し、国にしっかりと意思表明すべきだと求めました。日本共産党の岩田たけし衆院島根1区予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議が同席しました。

県議会は5月25日、島根原発1号機廃止措置について中国電力と原子力規制庁から説明を受けました。質疑応答で日本共産党の尾村利成県議は、来年度から稼働予定の再処理工場(青森県六ヶ所村)に使用済み核燃料を運搬するとし

大國陽介県議は「点検漏れや報告書の偽造など不正、不祥事が相次いでいる。中電に廃炉という大仕事は任せられない」と批判したのに対し、古林本部長は「信頼を取り戻せるよう全社をあげて再発防止に取り組み」と述べました。

他の県議からは「再処理などは政府の判断。計画通りにならないと政府に言ったら、約束が違おうと政府に言ってもらわなければならぬ」と、中電に指摘する意見もありました。

ローカル線の切り捨てやめよ

JR三江線廃止問題で大臣を追及

先日、国土交通委員会では、昨年も取り上げたJR三江線をはじめローカル線の廃止問題を質問しました。

JR西日本の社長は「大量輸送という鉄道の特性が発揮できていない路線では、あるべき交通体系を議論する必要がある。三江線のように廃止してバス転換するのも選択肢の一つ」と露骨に語っていました。

私は「芸備線や福塩線、木次線など該当する路線が廃止されれば、中国地方の中山間地域を走る鉄道はなくなってしまうのではないかと、国交省は黙って認めるのか」と大臣を追及。

大臣は「事業者は丁寧な協議を」と繰り返しましたが、結局、現在の鉄道事業法の下では路線の廃止は事業者の届け出制となっており、国や自治体、住民には何の権限もないというところから最大の問題があります。

大平よしのぶ

衆議院議員



アツク
やさしく



いまなお国民の巨額の負担に支えられ、「年間1000億円の利益を上げるJR西日本に決して好き放題にやらせてはならない、鉄道事業法の見直しを」と正面から求めた際には、他党からも拍手がありました。

質問準備の過程で、谷川俊太郎さんがはじめて新幹線に乗った時につくったと言われる「急ぐ」という詩を目にしました。

「こんなに急いでいいのだろうか 田植えをする人々の上を 時速二百キロで通りすぎ 私には彼らの手が見えない 心を思いやる暇がない この速度は早すぎて間が抜けている 苦しみも怒りも不公平も絶望も：しかもなお間にあわない急いでも急いでも間にあわない」。

心から共感。「成長」や「効率」をどこまでも追求する財界と一体となった自民党政治に「中国地方から『田植えをする人々』の手を見、声を聞け」と警鐘を鳴らし続けたいとあらためて決意しました。(写真：倉林明子参院議員を迎えた岡山での演説会 5月20日)

第55回島根県母親大会

6月25日(日) 9:30~15:30

大田市立大田小学校

講演「いのちをみつめて おしばいとおはなし」

講師 有馬理恵さん(俳優)

一人芝居を交えたお話を聞いてみませんか。

主催：県母親大会実行委員会地元(大田)実行委員会